

SAICYOZAKURA

能
西行桜



日本全国
能楽キヤラバン!

in

大垣

新春特別公演

TAMURA

能
田村
替装束



HANJO

能
班女
笹之伝



KOKAJI

能
小鍛冶
黒頭



2024年 1月20日(土)

【第1部】開演 午前11時 (開場 午前10時)

【第2部】開演 午後2時30分 (開場 午後2時)

大垣市民会館

〒503-0856

岐阜県大垣市新田町1丁目2番地

チケット

一般前売

指定席券〔一日通し券〕 4,000円

自由席券〔第1部〕 2,500円

〔第2部〕 2,500円

一般当日(自由席券のみ)

〔第1部〕〔第2部〕 各 3,000円

学生券(自由席のみ) 各 1,000円

チケット取扱い

●大垣市民会館(1階事務室) 10:00~17:00

TEL.0584-89-1111

●京都観世会事務局(京都観世会館)

TEL.075-771-6114

<https://piagettii.s2.e-get.jp/kyotokanze/pt/>

※「一日券」は京都観世会館(窓口・電話・WEB)のみでお取扱いいたします

※京都観世会館の電話・WEBにて購入の方は、セブンイレブンにて発券のうえご来場ください

【10月28日(土) 10時発売】

「一般前売」の販売は、公演前日16:00までとなります。

チケット販売サイト



JR大垣駅より
大垣駅南口 タクシー10分
名阪近鉄バス3番乗場 市民会館行 約15分
駐車場：一般車/約350台(無料)
※周辺に有料駐車場はありません。
ホール等ご利用の際は、公共交通機関
又は、乗り合わせでお越しください。

【お問合せ】 京都観世会事務局 TEL.075-771-6114 (9:00~17:00 ※月曜、12/29~1/6休館)

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業(アートキャラバン2)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

主催：公益社団法人能楽協会、公益社団法人京都観世会 後援：大垣市、大垣市教育委員会、岐阜新聞社、岐阜放送、NHK岐阜放送局、エフエム岐阜

【第1部】開演 11:00

親世流 能	田村 替装束
前シテ/童子	深野 貴彦
後シテ/坂上田村麻呂	有松 遼一
ワキ/旅僧	岡 充
ワキツレ/從僧	原 陸
ワキツレ/從僧	鹿島 俊裕
アイ/清水寺門前の者	山村 友子
笛	山村 友子
小鼓	船戸 昭弘
大鼓	河村裕一郎
後見	青木 道喜
地謡	浦田 保浩
	片山 伸吾
	宮本 茂樹
	樹下 千慧
	梅田 嘉宏
	越賀 隆之
	田茂井廣道
	河村浩太郎
	寺澤 拓海

—— 休憩 15分 ——

(0:30頃)

親世流 能	班女 笹之伝
シテ/花子	浦田 保親
ワキ/吉田少将	福王 知登
ワキツレ/從者	矢野 昌平
ワキツレ/從者	村瀬 慧
アイ/野上宿の長	野村又三郎
笛	森田 保美
小鼓	後藤嘉津幸
大鼓	河村眞之介
後見	大江又三郎
地謡	河村 和重
	分林 道治
	河村 和貴
	谷 弘之助
	大江 信行
	河村 晴久
	味方 團
	大江 広祐
	浅井 風矢

(終了予定 1:40頃)

【第2部】開演 2:30

親世流 能	西行桜
シテ/老桜の精	橋本擴三郎
ワキ/西行法師	宝生 欣哉
ワキツレ/花見男	則久 英志
ワキツレ/花見男	小林 努
ワキツレ/花見男	宝生 尚哉
アイ/能力	野村 信朗
笛	竹市 学
小鼓	林 吉兵衛
大鼓	石井 景之
太鼓	井上 敬介
後見	片山九郎右衛門
地謡	井上 裕久
	味方 玄
	鷲尾世志子
	樹下 千慧
	橋本 忠樹
	吉田 潔司
	浦部 幸裕
	河村 和晃
	寺澤 拓海

和泉流 狂言 重喜

シテ/住持	野村又三郎
アド/重喜	野村 信朗
後見	藤波 徹

—— 休憩 15分 ——

(4:20頃)

親世流 能	小鍛冶 黒頭
前シテ/童子	吉田 篤史
後シテ/稻荷明神	原 大
ワキ/小鍛冶宗近	原 陸
ワキツレ/橋道成	松田 高義
アイ/宗近の家人	左鴻 泰弘
笛	林 大和
小鼓	井林 久登
大鼓	加藤 洋輝
太鼓	橋本 光史
後見	橋本 雅夫
地謡	杉浦 豊彦
	河村 博重
	松野 浩行
	谷 弘之助
	古橋 正邦
	松井 美樹
	大江 泰正
	浅井 風矢

(終了予定 5:20頃)

能 田村 替装束

旅僧(ワキ)が清水寺にて今を盛りの桜を眺めていると、木陰を掃き清める童子(前シテ)が現れる。童子は坂上田村麻呂の御願により清水寺が創建された事や、辺りの名所を教えるうち、月が桜を映す時刻となる。春の宵の一刻は千金に値すると二人は眺め、月あかりの中、童子は田村堂に姿を消す。〈中入〉僧が経を読んでいると坂上田村麻呂の霊(後シテ)が現れ、勅命により軍勢を率いた時、千手観音が現れ田村麻呂に力を与えた事を語り、これも信仰のおかげと、観世音の力を讃えて消えて行く。



シテ 深野 貴彦

能 班女 笹之伝

美濃国・野上宿(岐阜県関ケ原町)の遊女花子(シテ)は、東国へ下る途中の吉田少将(ワキ)と、復路の再会を約束し、形見に扇を取り交わし契りを結ぶ。それ以来、扇に眺め入り、動機に出ようとならない花子は、怒った宿の主(アイ)に追い出されてしまう。〈中入〉東国からの復路、花子が行方知れずだと聞いた少将は急ぎ都に帰り、男女の縁を結ぶことで名高い札の森・下鴨神社に参詣する。するとそこへ扇を抱いてさすらい班女と呼ばれ、狂女となった花子が現れる。班女はただひたすら少将との再会を祈願していた。従者(ワキツレ)に「班女の扇は」と問われ、恋しい人に捨てられたことを秋の扇に例え、故事をひいて恋の切なさをあらわす。やがて少将は花子の持つ扇に気づき、再会の喜びを分かち合う。世阿弥作。



シテ 浦田 保親

能 西行桜

京都西山の西行法師(ワキ)の庵室の桜は今は満開。西行は一人で静かに桜を眺めようと思ひ、花見禁制の旨を告げるが、はるばる都から訪れた人達をむげに断れず、一行を庭へ通す。しかしやはり俗な花見客は心外、これも桜の咎(とが)だろうと「花見んと群れつつ人の来るのみぞあたら桜の咎にはありける」と歌に詠む。その夜、夢に桜の精(シテ)が現れ、その歌の心を問いたす。そして「桜の咎」とは承服できないと不満を述べ、非情無心の草木の花には何の罪もないと訴える。一方、西行と会えたことはこの上ない喜びと言ひ、都の桜の美しさを讃え、春の夜を惜しみつつ物寂びた舞を舞う。やがて夜も明け、桜の精は消え失せ、西行の夢も覚める。



シテ 橋本擴三郎

狂言 重喜

とある寺の住職が、新しい檀家さんから齋(とき/食事)に招かれたので、身嗜みを整えるべく、いつも頼んでいる門前の海阿彌に月代(さかやき/頭部)を剃ってもらうが、あいにく不在だったため仕方無く新発意(しんぱち/見習い僧)の重喜に剃らせる事にする。ところが不束者の重喜は、剃刀を持ったまま粗相をしたり、師匠の指導の例えを顔面通りに実行したりして剃髪作業に辿り着かず、住職をいらつかせてしまう。尚、仏道修行の一つとして食事は午前中の齋のみで、それ以外に振る舞われる食事を非時(ひじ)と呼ぶ。

能 小鍛冶 黒頭

霊夢を見た帝より、剣を打てとの勅使(ワキツレ)が宗近(ワキ)に遣わされる。自分に劣らぬほどの相槌がなければ帝の剣は打てないと途方にくれる。稻荷明神に参詣すると童子(前シテ)が現れ、唐土と日本の剣の奇瑞譚を語り、日本武尊(やまとたけるのみこと)の草薙剣(くさなぎのつるぎ)の物語を詳しく語り、力を貸すと約束して稻荷山へ消える。〈中入〉宗近がしめ縄を張り仕度を整えると、稻荷明神の使い・靈狐(後シテ)が現れ、相槌を勧める。見事に打ち上がった剣の表に「小鍛冶宗近」裏に「小狐」と銘を入れ、剣を勅使に捧げ、靈狐は再び稻荷山に姿を消す。



シテ 吉田 篤史

◆主催者が許可した方以外の写真撮影・録音・録画はお断りいたします。◆上演中は、携帯電話など音や光を発する機器の電源はお切りください。◆都合により、出演者、その他が変更になる場合がありますので、予めご了承ください。◆公演中止の場合を除き、購入されたチケットの払い戻しはできません。